

KANUMA NO MEISHO

鹿沼の名匠

宇賀神 久男

うがじん

ひさお



宇賀神 久男

屋台大工、宇賀神久男さんの作業場には、修繕中の益子町七井の山車本体や、屋台の部品が並んでいました。「屋台大工は全体に関わっているから、新築や修繕の時には、ここに屋台や山車の本体を置いておくんだ。彫刻は彫工さん、車輪は車師さんのところに行っているよ」

宇賀神さんは、山車の骨組みを見上げながら教えてくれました。木を選んで乾燥させるだけでも、一年以上かかります。この山車は三年前に預かりましたが、あと一年はかかるそうです。

家屋と違って、屋台は引き回すもの。鹿沼の祭りでは長時間動かすので、屋台への負担が特に大きいそうです。そのため、きしみや衝撃を吸収する独特の設計になっていますが、その構造は簡単でないといけません。

市内の彫刻屋台四台の新築に関わった宇賀神さん。「作るのは職人だけど、扱うのは素人。それに、お祭りの時に蔵から出してくるわけでしょ。酔っ払いでも組み立てられるくらい簡単じゃないとね」と苦笑いしていました。

限界に挑む、一生勉強が信条。

「小さいとき、家の蔵に収蔵されていた地元の屋台で遊んでいて、その頃から祭りが好きだった。それで屋台専門になったんだ」

仕事の合間に、彫工さんと共に取り組んでいるのが、宇都宮市伝馬町の屋台の再建。模型を手に「昔は、これが街中を練り歩いて、宇都宮城に入場していたんだ。いつか再建してみたいね」と、ひときわ目を輝かせていました。

◆ 彫刻屋台の屋台大工

☆ 鹿沼市